

登壇者略歴



アイニー・コーカス

ヴァージニア大学メディア研究学部准教授

ミラー公共問題センター シニア・ファカルティ・フェロー

複数の賞を受賞しているコーカス氏の最初の著書「Hollywood Made in China」(University of California Press, 2017) は、中国の投資と規制が米国の商業メディア業界を変容させたことを論じている。現在執筆中の著書「Data Trafficking : The United States, China, and the Global Battle for Data Security」では、米国と中国の間における消費者データの移転がもたらす政策への影響を検証している。コーカス氏の研究は、Information, Communication, and Society, Journal of Asian Studies, PLOS One などの主要誌にも掲載されている。また、コーカス氏は、外交問題評議会 (CFR) にも属しており、これまでにフルブライト、米国議会図書館、社会科学研究所評議会、メロン財団、全米人文科学基金、安倍フェローシップ・プログラムなどの財団より研究資金支援を受けている。コーカス氏が執筆した記事やコメンタリーは、48 カ国で 11 の言語で掲載されている。



中嶋 聖雄

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

専門は、社会学・アジアのクリエイティブ産業研究。近年、早稲田大学自動車・部品産業研究所所長として、CASE (Connected, Autonomous, Shared and Services, Electric) ・MaaS (Mobility as a Service) 時代における次世代モビリティとしての自動車産業に関する研究を始めている。



デイビッド・レーニー

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

ウィスコンシン大学マディソン校政治学部准教授、プリンストン大学ヘンリー・ウェント 3 世' 55 東アジア研究学部教授を経て、現職。コーネル大学出版局から出版された 3 冊の本の著者であり、最新の著書は「Empire of Hope: The Sentimental Politics of Japanese Decline」である。また米国国務省テロ対策室で地域専門官として勤務した経験をもつ。



藤原 帰一

東京大学大学院法学政治学研究科教授

東京大学法学部卒業、同大学大学院博士課程単位取得満期退学。フルブライト奨学生としてイェール大学大学院に留学。東京大学社会科学研究所助手を務め、千葉大学法経学部助手、同助教授、東京大学社会科学研究所助教授を経て、1999年から現職。前東京大学未来ビジョン研究センター長、フィリピン大学アジアセンター客員教授、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際研究院客員教授、米国ウッドローウィルソン国際学術センター研究員等を歴任。